

イスラーム勉強会 テキスト

子供向けイスラームのお話から。常にアッラーを忘れないように。

勉強開始時のドゥアー

ビスミ=ツラーヒ=ツ=ラフマーニ=ツ=ラヒーム。

(慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

アル=ハムドゥ・リツラーヒ・ラッピ=ル=アーラミーン。

(あらゆるものの主アッラーにこそすべての称讃あれ)

الحمد لله رب العالمين

ワ・アフダル=ツ=サラティ・ワ・アタンム=ツ=タスリーミ・アラー・サイイディナー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリヒ・ワ・サハビヒ・ワ・サッラム。

(そして我らが指導者ムハンマドさまとそのご家族、ご教友に最高の祝福と平安がありますように)

وأفضل الصلاة وأتم التسليم على سيدنا محمد وعلى آله وصحبه وسلم

アッラーフンマ・アフリジュナー・ミン・ズルマーティ=ル=ワハム。

(アッラーよ、どうか私たちが思い込みの闇から救い出してください)

اللهم أخرجنا من ظلمات الوهم

ワ・アクリムナー・ビ=ヌーリ=ル=ファフム。

(理解の光をお恵みください)

وأكرمنا بنور الفهم

ワ=フタハ・アライナー・ビ=マアリファティ=ル=イルム。

(知識の扉をお開きください)

العلم وافتح علينا بمعرفة

ワ・サッヒル・アフラーカーナー・ビ=ル=ヒルム。

(私たちの性格を温和さでより穏やかなものとしてください)

وسهّل أخلاقنا بالحلم

ワ=ジュアルナー・ミンマン・ヤスタミウーナ=ル=カウラ・ファ=ヤッタビウーナ・アフサナ(フ)。

(そしてどうか私たちを、言葉に耳を傾け、その中でも最善のものに従う者たちの一員としてください)

واجعلنا ممّن يستمعون القول فيتبعون أحسنه

このテキストの注意事項

- * テキストを作成する上での参考文献は基本的に日亜対訳・注解クルアーン（宗教法人日本ムスリム協会発行）及び預言者ムハンマドの足跡を辿って〈前編・生誕からヒジュラ（マディーナへの移住）まで〉（アフマド・クフターロー師の預言者伝講義より）訳アブー・サキーナ前野直樹によります。
その他については都度注釈を付けることを心がけます。
- * 預言者ムハンマドのお名前を聞いたり、口にしたりする時は、「まことにアッラーと天使たちは預言者を祝福する。信仰する者たちよ、汝らは彼を祝福し、最大の敬意を払って挨拶しなさい」（クルアーン 3 3 章 5 6 節）とクルアーンにあるように、必ず「アッラーの祝福と平安あれ（サッラ＝ッラーフ アライヒワ サッラム）」と祈るのがムスリムとしての礼儀ではある。しかし本テキストではあえて割愛させて頂いた。しかしムスリムの方は各自お祈りの言葉を唱えて頂きたい。
- * 本テキストで旧約聖書・新約聖書等にも登場する預言者達の名前が出てくる場合は、全てアラビア語読みとします。一例とすると「アダム」は「アーダム」, 「ノア」が「ヌーフ」, 「モーセ」が「ムーサ」, 「イエス」が「イーサー」である。
- * アラビア語を日本語にする時にどうしても当てはまらないニュアンスの単語があり、日亜対訳・注解クルアーンと違う説明が出てくる時もあるが、出来るだけこれについても引用文献の注釈を付けることを心がけます。
- * 基本的にこのテキストでは、文献に基づいた事柄を中心にしますが、制作者の個人的な意見も書く場合があります。その場合も注釈を入れます。
- * イスラームを勉強する場合は、ムスリム（人間）を見ないようにといわれています。どの宗教でも同じですが、完全な人間はいませんので、あるムスリムを見て「あれがイスラームか」と納得しないで頂きたいと思います。出来るだけ信頼の高い文献で裏付けするか、同じ事柄を複数のムスリムに聞いた方が良いでしょう。正しい知識を得る努力をして下さい。
- * 本テキストへのご意見・疑問・質問等ありましたら制作者までお問い合わせ下さい。

今回は日本人のムスリム・ムスリマ有志が作成した子供向けイスラームのお話をテキストとします。

「だれも みていない ところで」

アブー・ハキーム前野 / 作

ゼフラ金山、ハニーファ瀬藤、ハビーバ中田、アーミナ岡本、ウンム・ハキーム前野 / 校正

むかし、シャーム地方(ちほう)の中心地(ちゅうしんち)、つまり今(いま)のシリアのダマスカスという町(まち)に、ナワウィー先生(せんせい)という、とてもえらい先生(せんせい)がいました。『40のハディース(言行録(げんこうろく))』という預言者(よげんしゃ)ムハンマドさま(祝福(しゅくふく)と平安(へいあん)あれ)のお言葉(ことば)をあつめたご本(ほん)を書(か)かれた、ナワウィー先生(せんせい)です。

ナワウィー先生(せんせい)には、お弟子(でし)さんがたくさんいましたが、中(なか)でもとくにお気(き)に入(い)りりの弟子(でし)がひとりいました。

「ハキーム」という名前(なまえ)のそのお弟子(でし)さんは、とくべつにかしこいというわけではありませんでした。けれども、とても素直(すなお)で、いつも明(あか)るい笑顔(えがお)の少年(しょうねん)でした。ナワウィー先生(せんせい)がどこに行(い)くにもおともをし、朝(あさ)と晩(ばん)の masjid (モスク、イスラーム寺院(じいん))の勉強(べんきょう)も毎日(まいにち)熱心(ねっしん)にするのでした。

ハキームがちょっと朝(あさ)ねぼうして、ファジュル(夜明(よあ)け前(まえ))の礼拝(れいはい)の後(あと)の勉強会(べんきょうかい)に遅(おく)れてきたとします。するとナワウィー先生(せんせい)は、ハキームを手招(てまね)きして、いちばん前(まえ)に座(すわ)らせてくれるのです。先生(せんせい)はお弟子(でし)さんたちがたくさんいるのに、わざわざハキームをいちばん前(まえ)に座(すわ)らせるほど、彼(かれ)をかわいがっていました。

ナワウィー先生(せんせい)が大好(だいす)きなハキームは、みんなには悪(わる)いと思(おも)いながらも、素直(すなお)に幸(しあわ)せでした。

でも、ほかの弟子(でし)たち、とくに彼(かれ)よりも頭(あたま)のいい兄(あに)弟子(でし)たちは、ナワウィー先生(せんせい)がいつもハキームをかわいがることがおもしろくありません。

そこである日、ファジュルの後(あと)の勉強(べんきょう)が終(お)わってから、兄(あに)弟子(でし)たちは思(おも)いきって、ナワウィー先生(せんせい)に自分(じぶん)たちの正直(しょうじき)な気持(きも)ちを打(う)ち明(あ)けました。

「先生、失礼(しつれい)をおゆるしくください。でも先生はなぜハキームをとくべつにかわいがられるのですか？」

ナワウィー先生(せんせい)は、ほほえみながら答(こた)えました。

「では、その理由(りゆう)を教(おし)えてあげるから、みんな、ニワトリを一羽(いちわ)ずつ、だれも見(み)ていないところでほふって、明日(あした)の朝(あさ)もってきなさい。」

「ニワトリを一羽(いちわ)ずつですね？」

「そう、誰(だれ)もみていないところでね。」

ナワウィー先生(せんせい)の弟子(でし)たちは、それぞれ帰(かえ)っていきました。
みんな「だれも見(み)ていないところで、ニワトリを一羽(いちわ)ほふってくる」という宿題(しゅくだい)を、どうしたらいいかなあと考(かんが)えました。もちろん、ハキームもです。

アリーは、ニワトリをもって、屋根(やね)うら部屋(べや)へ上(あ)がりました。そしてきょろきょろして、だれもいないことを確(たし)かめました。

「よし、だれもいない。

ビスミッターヒ アッラーフ アクバル!

(アッラー(ゆいいつのかみさま)の御名(みな)によって。アッラーはもっとも偉大(いだい)なり!)」

ほふったニワトリ、一丁(いっちょう)あがり!

アブドゥルワーヒドは、自分(じぶん)の部屋(へや)に入(はい)ってとびらを閉(し)め、窓(まど)も全部(ぜんぶ)閉(し)めました。

「これならだれにも見(み)られないだろう。

ビスミッターヒ アッラーフ アクバル! 」

またほふったニワトリの一丁(いっちょう)あがり!

ムジャーヒドはろうそくに火(ひ)を灯(とも)して、地下室(ちかしつ)に入(はい)りました。それから誰(だれ)もいないのを確(たし)かめてから、火(ひ)を消(け)しました。

「よし、この暗(くら)さならジン(おばけ)にだって見(み)えないだろう。

ビスミッターヒ アッラーフ アクバル! 」

ここでもほふったニワトリの一丁(いっちょう)あがり!

アブドゥッラーは、お風呂場(ふろば)に入(はい)ってとびらを閉(し)めました。

「ここはいちばん誰(だれ)もいないところだ。

ビスミッターヒ アッラーフ アクバル! 」

もう一羽(いちわ)、ほふったニワトリの一丁(いっちょう)あがり!

こうして、弟子(でし)たちは思(おも)い思(おも)いのやり方(かた)で、宿題(しゅくだい)をしました。

次(つぎ)の日(ひ)の朝(あさ)、ファジュルの礼拝(れいはい)の後(あと)、弟子(でし)たちはナワウィー先生(せんせい)をかこんですわりました。

お皿(さら)の上(うえ)には、それぞれほふったニワトリがのせてあります。

でもどういうわけか、ハキームの姿(すがた)が見当(みあ)たりません。

一体(いったい)どうしたのでしょうか。

また寝坊(ねぼう)でもしたのでしょうか。

とりあえずナワウィー先生(せんせい)は、どこでニワトリをほふってきたのかを、みんなにたずねました。

「アリー、君(きみ)はどこでほふってきましたか? 」

「屋根(やね)うら部屋(べや)です。だれにも見(み)られませんでした。」

ナワウィー先生(せんせい)は、「そうですか」とニコニコしています。

「アブドゥルワーヒド、きみはどこで？」

「自分(じぶん)の部屋(へや)です。とびらも窓(まど)も全部(ぜんぶ)ちゃんと閉(し)めましたから、だれにも見(み)られてはいないはずです。」

ナワウィー先生(せんせい)はまたニコニコしながら、「そうですか」と言(い)いました。

「ムジャーヒド、きみは？」

「真(ま)っ暗(くら)な地下室(ちかしつ)です。人間(にんげん)にも、ジンにも見(み)られてはいないと思(おも)います。」

ナワウィー先生(せんせい)はまたニコニコしながら、「そうですか」と言(い)いました。

ほかの弟子(でし)たちにも同(おな)じように聞(き)いていくと、「台所(だいどころ)」や「森(もり)の中(なか)」、 「ひみつの隠(かく)れ家(が)」や「物置(ものおき)の中(なか)」、さらには「ほら穴(あな)」や「山(やま)のてっぺん」と答(こた)える人(ひと)もいました。

みんな、「確(たし)かに、だれも見(み)ていないところでほふってきましたよ」と、自信(じしん)があるようです。

コケーッコッコッコ

とつぜんニワトリの鳴(な)き声(こえ)と、バタバタバタという羽音(はねおと)がしました。

みんながマスジドの入(い)り口(ぐち)のほうをふり向(む)くと、なんとハキームが真(ま)っ赤(か)な顔(かお)をして、生(い)きたニワトリの首(くび)ねっこをつかんだまま、ハラム(礼拝堂(れいはいどう))の入(い)り口(ぐち)で立(た)ちすくんでいます。

ナワウィー先生(せんせい)は手(て)招(まね)きをしてハキームをみんなのそばへ近(ちか)寄(よ)らせました。

宿題(しゅくだい)を果(は)たせず恥(は)ずかしそうにしているハキームを見(み)て、みんなはクスクスと笑いをこらえています。

「どうやら、ハキームだけニワトリをほふってこなかったようですね。どうしたのですか？」

みんながハキームに注目(ちゅうもく)しました。

「先生(せんせい)、ごめんなさい。でも、ぼくには屠(ほふ)れませんでした。家(いえ)の中(なか)のいちばん奥(おく)の部屋(へや)に入(はい)って鍵(かぎ)を閉(し)めても、ダメでした。真(ま)っ暗(くら)闇(やみ)の地下(ちか)の倉庫(そうこ)に入(はい)ってみても、ダメでした。丘(おか)の上(うえ)に行(い)っても、ダメでした。真(ま)夜(よ)中(なか)に畑(はたけ)へ行(い)っても、ダメでした。」

先生(せんせい)は『だれも見(み)ていないところで』とおっしゃいましたから、ぼくには宿題(しゅくだい)をすることができませんでした…。

だって、人(ひと)の目(め)から隠(かく)れることはできて、アッラーの目(め)からは隠(かく)れられなかったのです…。」

ハキームはうつむいて申(もう)しわけなさそうに答(こた)えました。

みんなはびっくりして、だまりこんでしまいました。

するとナワウィー先生(せんせい)は、ハキームの言葉(ことば)に満(まん)足(ぞく)そうにうなづき、そしてみんなに向(む)かってこう言(い)ったのです。

「さあ、これで君(きみ)たちとハキームのちがいが分(わ)かりましたか？

アッラーを愛(あい)する人(ひと)は、いつも自分(じぶん)がアッラーに見(み)られているということ
を忘(わす)れることはありません。

そしてアッラーを愛(あい)すれば愛(あい)するほど、アッラーに好(す)かれ、
アッラーを愛(あい)する人(ひと)にも好(す)かれるのです。

さあ、アッラーに好(す)かれない人(ひと)は、ニワトリを貧(まず)しい人(ひと)たちに配(くば)っ
てきなさい。今朝(けさ)の勉強(べんきょう)は、それで十分(じゅうぶん)です。」

マスジドから外(そと)に出(で)ると、ちょうど空(そら)が明(あか)るくなりはじめていました。ア
ルハムドゥリッラー(アッラーに讃(たた)えあれ) 今日(きょう)もいい天気(てんき)です。早朝(そ
うちょう)の空気(くうき)は、一日(いちにち)の中(なか)でもいちばんおいしいもの。朝(あさ)の日
差(ひざ)しを体(からだ)いっぱい浴(あ)びながら、みんなの心(こころ)もあたたかい気持(きも)
ちでいっぱいになりました。

おしまい

子供向けと言うことですが、成人の方にも良いお話だと思えます。

イスラームでは「アッラーを恐れなさい」とよく言われますし、クルアーンにも出てきます。
何故なのでしょう。上記の物語の結末にあるように、常にアッラーのことを忘れずに行動しな
さい。ということなのです。

現代社会では時間に追われがちで、自分勝手な行動をしてしまうことがあると思えます。
そうならないようにする為にはいつもアッラーが見ているのを忘れないように。なのです。

イスラームでは、色々なことをする前やした後ドゥアを唱えることが良いとされています。
これは沢山種類があつてなかなか全て覚えると言うことは大変なことです。

まだ覚え切れていない人の為に、それに変わる短い言葉があります。

「ビスミ=ッラー」(アッラーの御名において)です。

食事をする前や家を出る前。車を運転する前や、家に帰った時等、この言葉を言うことも良いと
されています。

アッラーに感謝し、アッラーのことを忘れない為に常にこの言葉を言うことは、簡単且つとても
良いことなのです。